

この島で子や孫と安心して暮らせるように

2017年5月20日 FB ページ「I Love いしがき」に投稿



I LOVE いしがき HP



I LOVE いしがき FB

八重山毎日新聞5月20日付の記事です。

平得大俣への陸自配備求める

自衛隊
家族会
知念議長に請願書提出

自衛隊員の父母や家族らでつくる八重山自衛隊家族会（上地和浩会長、会員129人）の上地会長らが19日午前、平得大俣東地区への陸上自衛隊配備を求める請願書を石垣市議会の知念辰憲議長に提出した。同会

は、これまで八重山自衛隊父兄会として活動していたが、去る17日の総会で団体を改称した。改称後、行政に対する活動は初めて。上地会長は「私たちの子や孫が近くにおいて共に安心して過ごせる環境づくりに配慮してほしい」と求めた。請願書は市議会6月定例会で総務財政委員会に付託され、審議される。

請願書は、平得大俣東への陸上自衛隊配備計画の経過に触れながら「南西諸島地域の防衛体制の充実は極めて重要」とし、建設的な議論と円滑な作業推進を求

めている。請願書は、団体の改称時に開いた総会で採択。提出に必要な紹介議員は、砥板芳行氏と我喜屋隆次氏。提出は市議会議長室で行い、上地会長は「会員からは自分の子どもの近くにい



石垣市平得大俣東地区への陸上自衛隊配備を求める請願書を市議会に提出した八重山自衛隊家族会の役員ら＝19日午前、市議会議長室

たいという要望も多い。それぞれの親の子どもが頑張っている職場を信用し、励ましながら側に住めることに越したことはない」と語った。同席した役員たちは、同計画に対する反対運動や報道についても意見を述べ、「沖繩のマスコミは偏っている」、「先の大戦時から考えが止まっている」、「反対

する人たちは悪いイメージばかりを訴えている」などと語った。

知念議長は「議論をして理解を求める努力は必要」と述べ、請願書については「委員会ですっかり審議させたい」と話した。

お子さんやお孫さんと近くで暮らしたい、というご家族の気持ちは良く分かります。

でも、防衛省は、「自衛隊に採用されると、全国の自衛隊施設で勤務することになりますが、石垣島に部隊が配置された場合、部隊の任務と、隊員個々人の専門性が合致すれば、地元で働きたいという隊員の希望も考慮されます」と言っています（石垣市民の「事前質

問」への回答、沖縄防衛局ホームページ)。「市民のみなさまにぜひ受け入れていただきたい」と言う割には、いかにもそっけない回答ですね。「石垣島出身者と言えども即採用するわけではありません」と聞こえます。

そういう答えをする理由のひとつかもしれませんが、国防の基本文書である「防衛計画の大綱」には、下に紹介したような一節があります。平たく言えば、「島しょ部が攻撃され、弾道ミサイルや巡航ミサイルが飛んできて、外国軍が攻めてきたら、事前に配置した部隊に加えて増援部隊を送って反撃するが、それでも島が侵攻されたら奪回する」ということですね。「島しょ部」とは東シナ海に面した島々、つまり、石垣島や宮古島のことで、す。「事前に配置した部隊」が、今配備しようとして計画している警備部隊です。このことも、石垣市民と宮古島市民の質問への答えで、防衛省がはっきり認めています。

何と、石垣島に配備されるのは、ミサイル攻撃に耐え、この島で上陸戦、奪回戦という熾烈な地上戦を戦う部隊なのですね。そうなると、親族の情にほだされることなどないよう、他の地方の若者を配置するのが、「武士の情け」かもしれません。それでも、全国から急派される何千、何万の増援部隊や奪回部隊には、お子さんやお孫さんが加わるかもしれませんが、凄惨な戦場で再会するよりは、立派に任務を終えた彼らが無事に迎えてあげられるように、平和な非武装の石垣島を続ける方が、ずっと良いのではないのでしょうか？

陸自のミサイル基地など置かなければ、相手にとって、この島に高価なミサイルの雨を降らせたり、上陸作戦をさせたりする意味はないのですから。

「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱」より

島嶼部に対する攻撃への対応

島嶼部に対する攻撃に対しては、安全保障環境に即して配置された部隊に加え、侵攻阻止に必要な部隊を速やかに機動展開し、海上優勢及び航空優勢を確保しつつ、侵略を阻止・排除し、島嶼への侵攻があった場合には、これを奪回する。その際、弾道ミサイル、巡航ミサイル等による攻撃に対して的確に対応する。
